



Adobe Creative Cloud

Creative Cloudには、アドビのビデオツールすべてに加え、世界最高峰のデザインとWebおよびフォトツールが含まれており、最新の映像フッターやモーショングラフィックステンプレートが収録されたAdobe Stockも付属しています。処理が高速な編集環境が整備され、パワフルなカラー、グラフィックス、オーディオ編集ツールをシームレスに横断して使いこなせるワークフローとコラボレーション機能を提供し、最新の映像フォーマットにも対応しています。また、常に最新のソフトウェアアップデートが学習コンテンツとともに提供されます。Creative Cloudさえあれば、必要なすべてが手元に揃います。トが学習コンテンツとともに提供されます。Creative Cloudさえあれば、必要なすべてが手元に揃います。

www.adobe.com/go/video

無駄のないポストプロダクションワークフローの実現 ストーリーテリングの革新を

クリエイティブを思いのままにコントロールできる、頼れるツールの提供は、アドビにお任せください。ビデオ、モーショングラフィックス、オーディオ、アニメーション作成のための、業界最先端のツール群は、クリエイティブツールとサービスの融合によってのみ実現可能な最新のエコシステムを形成します。この、映画、放送、配信といったチャンネルを問わないコンテンツ制作の総合プラットフォームは、タイトな納期を守りながらも卓越したストーリーを創造したいクリエイターを支援します。

2019年4月リリースのアドビ ビデオ&オーディオツールでは、処理の高速化、より洗練されたワークフロー、そしてAdobe Senseiによる人工知能が提供され、さらに迅速なポストプロダクション作業が可能になりました。卓越したストーリーテリングを支援するクリエイティブツールへと進化したAdobe Premiere Pro、After Effects、Audition、Character Animatorの機能ハイライトをご紹介します。

制作スピードを大幅にアップする、ビデオ版「コンテンツに応じた塗りつぶし」

After Effectsのコンテンツに応じた塗りつぶしを使えば、不要なオブジェクトの消去や、ショットのクリーンアップができます。Adobe Senseiテクノロジーを利用したこの機能は、いち早くPhotoshopに搭載されており、背景コンテンツの解析を先進的なアルゴリズムに任せることで、ロゴや影あるいはブームマイクなど、たとえそれが動いていても、不要なオブジェクトをビデオから消去する作業の大半を自動化します。

クリエイティブで効率的なストーリー創造を支援する「フリーフォームプロジェクト」パネル

Premiere Proの新しいフリーフォームプロジェクトパネルを使えば、プロジェクトを整理したり、メディアを組み合わせるストーリーボードを作成したりできます。粗編集に組み入れるショットを選択する際は、クリップを自由に配置しながら視覚的に検討することができます。フリーフォームプロジェクトパネルは、制約が多かったこれまでのリスト表示やグリッド表示に代わって、アイデアのブレインストーミングに最適な場所となるでしょう。

洗練されたタイトルおよびモーショングラフィックス作成ワークフロー

Premiere proの定規とガイド機能を使えば、正確なテキストとグラフィックスの作成が可能になり、チームやプロジェクトを横断したガイドラインの遵守も容易になります。使い方は他のアドビ デザインツールと全く同じで、「ガイドテンプレート」として保存すれば共有もできます。タイトルとモーショングラフィックスの作成がよりスマートになりました。

Adobe Stock提供の無償フッターを使って新機能を学べるチュートリアルをご用意しています：

After Effectsの新機能「コンテンツに応じた塗りつぶし」を試してみましょう
<https://adobe.ly/2TYmUYv>

Premiere Proの新機能「フリーフォームプロジェクト」パネルを試してみましょう
<https://adobe.ly/2TZoZDA>

Premiere Proの新しいタイトル作成ツールを試してみましょう
<https://adobe.ly/2UCCwFo>



2019年春リリースのPremiere Proのプロジェクトパネルには、アセットを視覚的に整理できるフリーフォーム表示が追加されました。



Adobe Premiere Proは、プロフェッショナル向けのビデオ編集アプリケーションです。

Premiere Proのお客さま：

- ・映像編集者および映画制作者
- ・放送番組制作者およびブランド企業
- ・オンライン動画クリエイター
- ・映像制作プロダクション
- ・企業向けおよびイベント等のビデオ制作者
- ・学生と教職者

Adobe Stock提供の無償フットージを使って新機能を学べるチュートリアルをご用意しています：

Premiere Proの新機能「フリーフォームプロジェクト」パネルを試してみましょう <https://adobe.ly/2TZoZDA>

Adobe Premiere Proの新機能

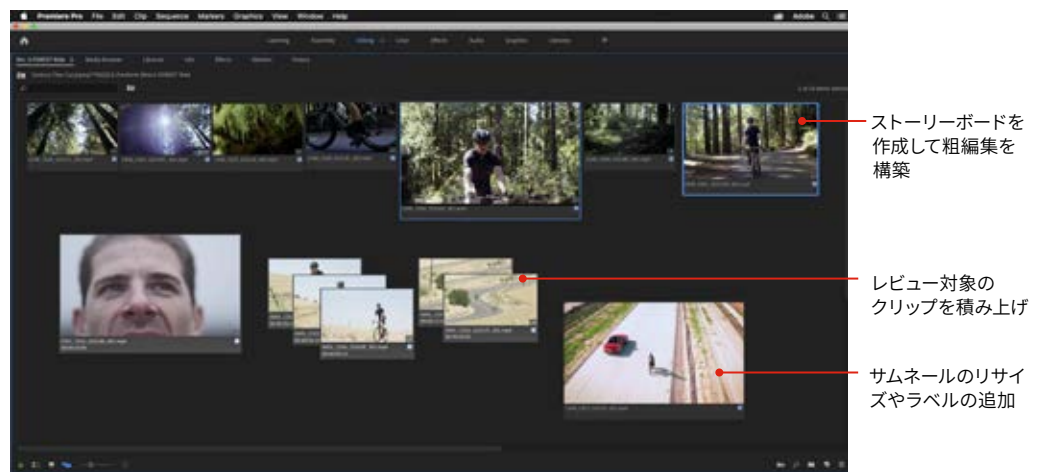
Premiere Proは、豊富な映像フォーマットに対応し、カラーとグラフィックスおよびオーディオのための強力なクリエイティブツールを完備しながらも無駄のないワークフローを提供する、業界最先端のビデオ編集アプリケーションで、映画、テレビ、オンライン動画など幅広い用途をカバーします。

最新のリリースでは、処理の高速化とツールセットの強化を実施しました。

「フリーフォームプロジェクト」パネル

新たなメディアが次々と登場するいっぽうで、映像編集者は納期の短縮傾向に直面しています。そんななか、伝えるべきストーリーを見失うことなく、複雑化するコンテンツを容易に管理できるツールが求められています。新しい「フリーフォーム」表示は、プロジェクトパネルを拡張し、メディア素材の整理やアイデアの視覚化に役立つオープンなキャンバスです。クリップやシーケンスあるいはピンなどのアセットを自由に配置し、意図した映像の流れに沿ってレイアウトを作成できます。クリップにカラーでラベル付けする、複数クリップを一か所に積み上げる、ヒーローショットを大きく表示、といった自由度の高いレイアウト機能を備えており、クリップをタイムライン上にドラッグ追加すれば、そのまま粗編集ができあがります。

1つのピンにまとめられた素材から目的に応じた異なるレイアウトを複数作成して保存したり、レイアウト間で素材を移動させることも可能です。さらに、表示するメタデータやサムネイルなどピンの見た目もカスタマイズできます。フリーフォームプロジェクトパネルは、クリエイティブで効率的なストーリー創造を支援します。



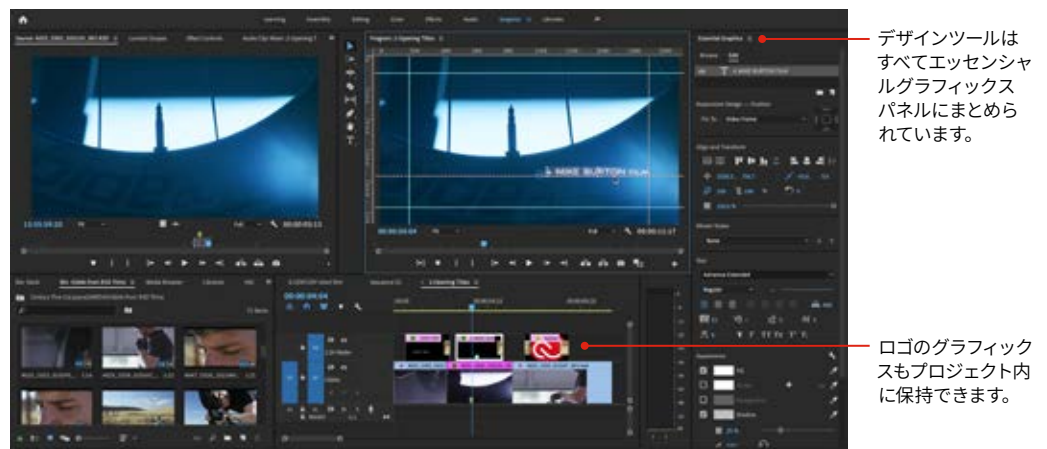
フリーフォーム表示はメディアの整理やショットの選択に役立ちます。

定規とガイド

これまでにない正確さで一貫性で、タイトルとグラフィックスの配置が可能になりました。この新しい定規とガイド機能は、他のAdobeデザインツールと同様に動作するだけでなく、強化されたスナップ機能も備え、グラフィックスや静止画像あるいはビデオを正確なサイズで配置したり、整列させるのに役立ちます。ガイドに表示色を適用して使いやすくすることもできます。また、ガイドテンプレートを作成して共有すれば、制作物を横断したブランドガイドラインの適用も容易です。

表示メニュー

プログラムモニター、新しい定規とガイド機能、そしてガイドテンプレートの読み込みと保存に関連したコマンドを集約した、独立したメニューがPremiere Proのメニューバーに追加されました。



定規とガイドはデザインの一貫性をもたらします。

Adobe Stock提供の無償フッターを使って新機能を学べるチュートリアルをご用意しています：

Premiere Proの新しいタイトル作成ツールを試してみましょう
<https://adobe.ly/2UCCwFo>



「Premiere Rush」は、オンライン動画の作成と共有に特化した、オールインワンかつクロスデバイスのアプリで、ビデオ編集をモバイル環境に持ち出すことを可能にします。Rushで作成したプロジェクトをPremiere Proで開き、さらに編集を加えることもできます。

Premiere Rushは、Creative CloudコンプリートプランおよびPremiere Proシングルプランに含まれています。

テキストツールの強化

タイトルおよびグラフィックス作成に必要なツールがすべてまとめられた「エッセンシャルグラフィックス」パネルを使ったテキスト作成の効率がアップしました。日本や韓国でタイトルやローワーサード（テロップ）に多用される、複数ストロークやストロークスタイルが、テキストに適用可能になりました。また、テキストを強調するための背景色を設定したり、マスクを適用することもできます。フォントの扱いも容易になりました。環境に無いフォントが指定されている場合に生じる問題を回避するために、Adobe Fontsの自動同期機能を使うか、同期できない場合はフォールバックとして使用できる代用のフォントをカスタム指定できるようになりました。フォントの置換はプロジェクト全体にわたって一斉に行われるため、デザインの更新がワンクリックで容易に実行できます。



複数ストロークのテキストをサポート

グラフィックス作成機能の強化

今回のリリースでは、Premiere Pro内でグラフィックスおよびアニメーション作成機能が強化されました。シェイプのグループ化やマスクの適用はすべてエッセンシャルグラフィックスパネルから行えます。また、ドラッグ&ドロップ操作だけで、複数のモーショングラフィックステンプレートファイルをエッセンシャルグラフィックスパネルに追加可能になりました。

バックグラウンド対応の自動ダッキング

バックグラウンドのサウンドは、映像コンテンツの環境や場所といった文脈を補強します。会話を認識できるAdobe Senseiテクノロジーを活用した自動ダッキング機能は、前景の会話や音楽あるいはサウンド効果の音声ボリュームに呼応してバックグラウンドのサウンドを自動調整します。この調整はキーフレーム上に設定されるため、ミックスを後で再調整することも可能です。

オーディオ編集の効率化

トラックエフェクトにおけるオーディオエフェクトの順序の入れ替えが可能になりました。オーディオトラック間での、エフェクトおよび設定のコピー＆ペーストもできるため、オーディオ調整の効率がアップします。

マスクトラッキングをはじめとする、いくつかのパフォーマンス強化

マスクトラッキングの処理が大幅に高速化され、高解像度でもその効力を発揮します。また、Lumetriカラーとエフェクトのワークフローの効率化が図られ、H.264およびHEVCコーデックの処理も強化されています。Metal対応のハードウェア高速化は、REDフッターの再生をよりスムーズにします。さらに、eGPUを含むマルチGPU対応の負荷分散を最適化し、プロフェッショナル用コーデック、とりわけApple ProResやREDなどへのレンダリングや書き出しも高速化しています。新しい「システムの互換性レポート」ユーティリティは、古いビデオカードドライバーなど既知の問題を特定し、パフォーマンス強化の恩恵を確実に受けられるよう支援します。



「Adobe Capture」は、カメラ付きスマートフォンを活用したデザイン要素の収集を支援する、iOSおよびAndroid用のモバイルアプリです。シェイプやタイポグラフィなど興味深い意匠や、風景や写真のカラーコンビネーションなどのクリエイティブルックをキャプチャーしてCreative Cloudライブラリに取り込み、プロジェクトに活かします。Premiere ProやAfter EffectsのLumetriカラーツールで利用することもできます。



マスクトラッキングを使えば、移動するオブジェクトに対してもカラー調整やエフェクトが適用できます。



Adobe After Effectsは、モーショングラフィックスとビジュアルエフェクトのアプリケーションです。

After Effectsのお客さま：

- ・モーショングラフィックスデザイナー
- ・放送番組制作者およびブランド企業
- ・映像編集者および映画制作者
- ・ビジュアルエフェクトアーティスト
- ・デザイナーおよびアニメーター

After Effectsの新機能

After Effectsは、アニメーター、映像編集者、デザイナー、ビデオコンポジットのための、モーショングラフィックスおよびビジュアルエフェクトの業界標準ツールで、高度なアニメーションや合成効果を活かした魅力的なビデオの制作を可能にします

最新のリリースでは、ビデオクリップから不要なオブジェクトを消去する機能や、エクスプレッション（スクリプト言語）編集機能の強化などの新機能が追加されました。

ビデオ用コンテンツに応じた塗りつぶし

制作および納品スケジュールがタイトなとき、アウトテイクのショットを修整して使ったり、あるショットを改変して再利用できれば大幅な時間の節約になります。Photoshopに最初に導入された「コンテンツに応じた塗りつぶし」機能が、今回のリリースで映像編集者とビジュアルエフェクトアーティストにも提供されました。撮影機材、ブームマイク、特効の配線といったオブジェクトが意図せず写り込んでしまった場合でも、それら不要なオブジェクトをクリップから消去できます。

不要なオブジェクトを消去してショットの修整や再利用を



Adobe Senseiで強化されたコンテンツに応じた塗りつぶし機能は、オブジェクト、シャドウ、ノイズなど不要な領域として指定したマスクに対し、隣接するピクセルまたは他のフレームから生成した背景塗りパターンを適用します。このとき、マスク領域のオブジェクトのモーションと深度を、オプティカルフローや3Dトラッキングといった最新テクノロジーで予測することで、よりインテリジェントな背景塗りパターンを構築します。

マスク領域にコンテンツに応じた塗りつぶしを適用



クレーンや三脚あるいは照明などが写り込まないよう「オフカメラ」に追いやることが不可能な360°VRプロジェクトにおいて、コンテンツに応じた塗りつぶしは不可欠な機能となるでしょう。さらに、背景を自動車横切った、レンズに埃が付いていた、小道具が間違った場所に置かれていたなど、不要なオブジェクトの写り込みやシーンのつながりの不整合といった理由でアウトテイクになったショットの問題を解決して救済することも可能です。

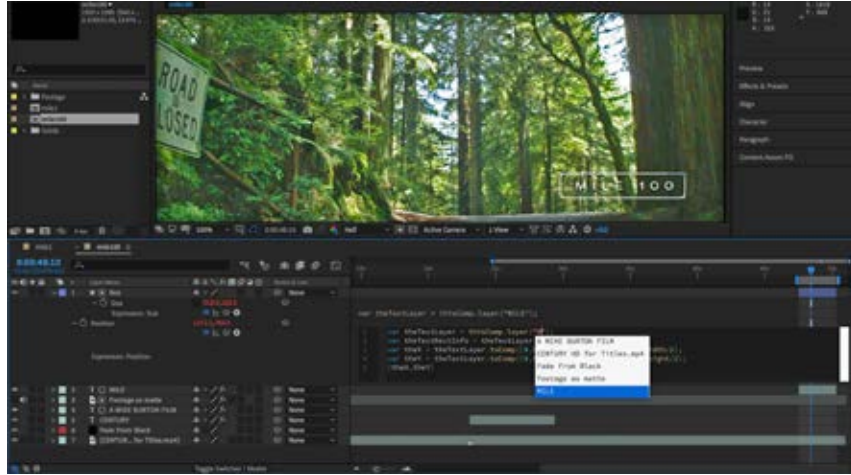


代替の背景塗りパターンがインテリジェントに生成され、問題箇所を塗りつぶして消去します。

エクスペッションエディター

フル機能のコードエディター「エクスペッションエディター」が搭載されました。エクスペッションとは、数百ものキーフレームを手作業で調整する代わりに、簡単なJavaScriptコードとレイヤープロパティをリンクすることで柔軟性のある動的なアニメーションを実現する、After Effectsのスクリプト機能です。エクスペッションエディターには、構文強調表示、行番号、対応する中括弧の強調表示、コードの折りたたみといった、コードを視覚的に把握するのに役立つ機能が搭載され、作業効率がアップしています。

コード構造を明瞭化するためのカラーテーマが複数用意されています。また、インラインのエラーメッセージ表示により、問題発生時の文脈の把握と原因の特定が容易になりました。魅力的なアニメーションを作成するためのワークフロー強化を実現したエクスペッションエディターは、2018年秋リリースで追加されたエクスペッションエンジンを活用しています。



エクスペッションは、コンポジションに含まれるプロパティを操作するコードです。他のプロパティやデータの変化に連動した動的なデザインを可能にします。

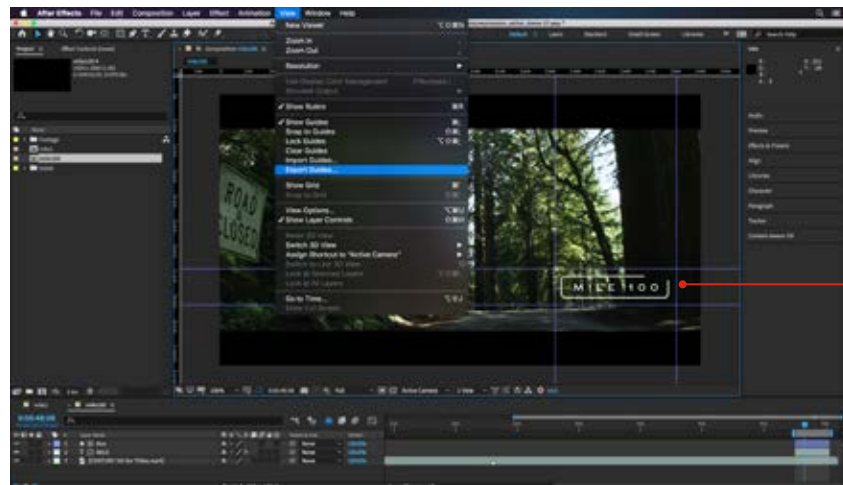
パフォーマンスの強化

「ラフエッジ」や「色を変更」といったGPU対応エフェクトのレンダリングが高速化され、どちらも16ビットおよび32ビットカラーに対応しています。After Effectsプロジェクトまたはモーショングラフィックステンプレートに環境に無いフォントが指定されている場合、Adobe Fontsの自動同期が利用可能になりました。複雑なチームプロジェクトの読み込みも高速化され、Premiere ProとAfter Effectsの連携ワークフローも強化されています。

macOSのMetal APIのディベイヤー（デモザイク）処理のサポートにより、RED RAWフッターがより効率的に扱えます。また、Sony VENICE v3にも新たに対応しました。さらに、H.264/HEVCのハードウェアデコーディングが強化され、さらにスムーズに再生できます。

Premiere Proとのガイドテンプレート共有

After Effectsで作成したガイドテンプレートを保存し、Premiere Proを使っている映像編集者と共有すれば、プロジェクトやチームを横断したビジュアルの一貫性の保持が容易です。



ガイドテンプレートは、プロジェクトやチームを横断した共通のデザインガイドラインとして使います。

Adobe Stock提供の無償フッターを使って新機能を学べるチュートリアルをご用意しています：

Premiere Proの新しいタイトル作成ツールを試してみましょう
<https://adobe.ly/2UCCwFo>



Adobe Auditionは、プロフェッショナル向けのオーディオ編集アプリケーションです。

Character Animatorのお客さま：

- ・ビデオ編集者および映画制作者
- ・放送番組制作者およびポッドキャスト制作者
- ・サウンド修復エキスパート
- ・ミュージシャンおよびサウンドエキスパート

Adobe Auditionの新機能

Adobe Auditionは、業界最高のノンリニア編集統合機能を備え、放送からポッドキャストまであらゆるサウンド制作ニーズに対応可能な、包括的な音響ポストプロダクションソリューションです。

最新のリリースでは、フル機能のパンチ&ロール録音とバックグラウンド対応の自動ダッキングを新機能として追加したほか、生産性向上のためのワークフロー強化を実施しています。

パンチ&ロール録音

新しい「パンチ&ロール」録音機能は、波形エディターとマルチトラックエディターの両方に対応し、ボイスオーバーやナレーションなど、長時間の録音セッションのワークフローを効率化します。トラックを再生確認しながら思い通りの箇所に正確にパンチイン（上書き録音開始）を行い、次の箇所へと続行できるため、収録がスムーズに行なえます。オリジナルの録音のペースにあわせるための、時間指定可能なプリロールや、ビジュアルカウントダウン表示は、演者が録音ブースで吹き込む場合でも、パソコンを直接操作する場合でも、最良の結果をもたらします。

バックグラウンド対応の自動ダッキング

より豊かなサウンドスケープを作成するため、他のオーディオ要素を損なわないバランスで環境音をミックスに組み入れられます。「エッセンシャルサウンド」パネルから利用できる、Adobe Senseiを活用した自動ダッキング機能は、前景の会話や音楽の音量に呼応してバックグラウンドトラックの音量を自動的に調整します。オーディエンスに注目してほしいオーディオクリップをAuditionに指示するだけで、自動ダッキングがバックグラウンドでミックスを作成します。自動作成されたミックスをそのまま使うことも、あとからキーフレームを手作業で調整することも可能です。

ワークフローの強化

さらに正確なミックスが可能になりました。キーフレームを手動で編集することで、思い通りのサウンド調整が実現します。また、新しいキーボードショートカットの追加により、トラック間のクリップの移動がキーボードから手を離さずに実行可能になりました。新しい「選択したクリップにズーム」コマンドは、1つ以上の選択されたクリップの時間範囲にすばやくズームします。

自動ダッキングは、台詞などの前景音が、環境音やBGMなどの背景音に埋もれないように、自動的にミックスを調整します。



キーフレームは手動で自在に調整可能



Adobe Character Animatorは、2Dアニメーション作成のための革新的ツールです。

Character Animatorのお客さま：

- ・放送番組制作者
- ・アニメーター
- ・オンライン動画クリエイター
- ・デザイナー
- ・モーショングラフィクスアーティスト
- ・学生および教職者

Adobe Character Animatorの新機能

Character Animatorは、豊かな表情とともに身振りで動くアニメーションを実現し、クリエイターが新しいレベルの芸術的腕をあらゆるジャンルで発揮する機会を提供します。リアルタイムのライブストリーミングにも最適です。

Character Animatorが多くのアニメーション制作スタジオやプロダクションで活用されるようになったいま、今回のリリースではツールセットの強化に注力しました。パペットリグの強化、パペットのタグ付け、あごの動きおよびリップシンクの強化、Twitch向けの拡張機能などがそれです。

パペットリグの強化

キャラクターの性格を決定づけるジェスチャーや動きの振り付けが容易になりました。パペットリグが改良されたことで、ビヘイビアの適用、レイヤーのタグ付け、パペットリグの検索など、確立されたワークフロー内でより多くの作業が行えるようになりました。単一のレイヤーでも任意の複数レイヤーでも簡単に属性を適用できるため、動きの種類が豊富な複雑なパペットであっても簡単に作成できます。また、新しい検索フィルターによってレイヤーとビヘイビアの検索が簡単になり、生産性がアップしました。

パペットパネル上でタグを設定するためのUIが強化され、レイヤーとレイヤーのグループをそれぞれ口や目などの部品として指定する作業がより迅速かつ直感的に行えるようになり、厳格なレイヤー名に頼る必要がなくなりました。また、新しい「左右のタグを入れ替える」オプションは、パペットのデザイン修整を容易にします。さらに、同じパペットの特定のレイヤーからハンドルをコピーし、別のレイヤーのまったく同じ場所にペーストできるため、マグネットの場所を完璧に揃えられるようになりました。

あごの動きとリップシンクの強化

キャラクターのあごが、リップシンクされた編集可能な口要素と自動的に連動するようになりました。また、シーンのオーディオからくみ割り人形タイプのおごモーションを計算することもできます。さらに、Adobe Senseiの活用によってオーディオに含まれるノイズの影響を低減した、より高品質なリップシンクが実現しました。

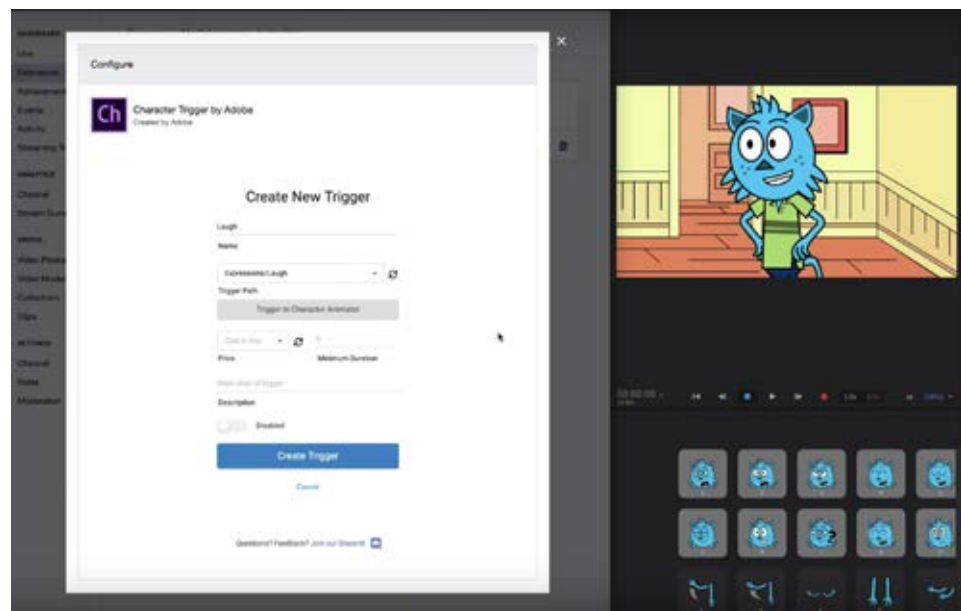
Twitch向けの拡張機能

Twitch向けのCharacter Trigger拡張機能を使えば、視聴者のトリガー操作にリアルタイムで反応してコスチュームをその場で変えたり、即興でダンスをしたり、決めのジェスチャーやポーズをするキャラクターを使ったライブストリーミングが簡単に配信できます。よりインタラクティブな番組の提供で視聴者を驚きとともに喜ばせることができ、Twitchチャンネルの収益化にもつながります。

Characterizerワークフローの強化

Characterizerとは、既存のアートワークをCharacter Animatorで利用可能なパペットに変換する、Adobe Senseiを活用した機能です。今回のリリースでは、より高速なUIと、3つの新しいスタイルの提供、ならびにAdobe Senseiによる結果的な見栄えの改善が実施されています。

新しいTwitch向け拡張機能を使えば、ライブストリーミング中に視聴者がキャラクターのアクションをトリガーできるようになるため、よりインタラクティブでエンターテインメント性が高く、収益に直接つながる番組を配信できます。





Adobe Stockには、1,000万点を超えるHD/4Kビデオ、モーショングラフィックステンプレート、写真、ベクターアート、3Dアセットが収録されています。

Adobe Stockのお客さま：

- ・映像編集者およびビデオ制作プロフェッショナル
- ・放送番組制作者およびニュース映像編集者
- ・エージェンシーおよびデザイナー
- ・オンライン動画クリエイター
- ・アーティストおよびフォトグラファー

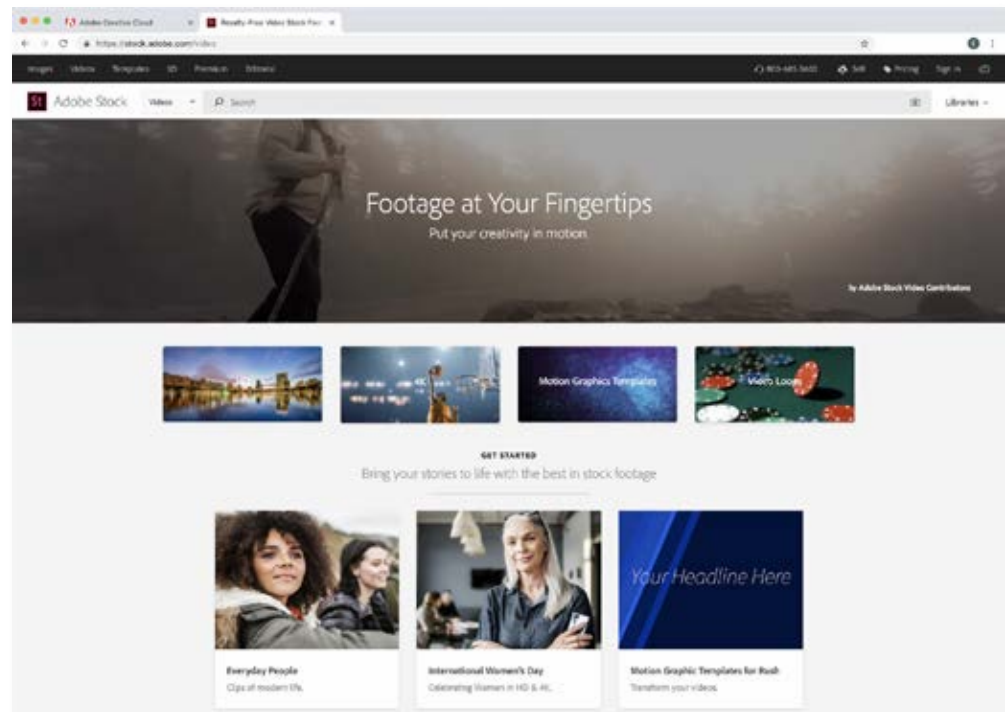
Adobe Creative Cloudのアドバンテージ

アドビのビデオ&オーディオツールは、世界最高峰のアプリケーションを集約したユニークなコレクションであるAdobe Creative Cloudの一部です。Creative Cloudには他にも、PhotoshopやLightroomのような重鎮ソフト、Premiere RushやAdobe DimensionおよびAdobe XDのような革新的な新アプリ、高品質な映像フッテージやモーショングラフィックステンプレートの売買ができる多様性に富んだマーケットプレイスであるAdobe Stockのような統合化サービスが含まれます。アドビはこれらのアプリとサービスを一体化することで、豊富なツールをいつでも利用可能な状態で提供します。さらに、クリエイターが個々の強みを発揮しながらスキルセットを拡張し、素晴らしいコンテンツを創造できるよう支援します。

Adobe Stockでストーリーテリングに彩りを

Adobe Stockには、1,000万点を超えるロイヤルティフリーな高品質HD/4Kビデオが収録されています。これらは、アドビが独占提供するGoPro社制作コンテンツや、Pond5、Discover Footage、ATW Media、Rubberbellほか各社が提供する映像コレクションなど、業界をリードするクリエイティブエージェンシーから提供されたコンテンツを厳選したものです。ストーリーテリングに彩りを添えるために、エスタブリッシングショットやフィラーに使えるフレッシュで現代的なフッテージをお探しなら、Adobe Stockがいつも簡単にその望みを叶えます。

Adobe Stockには、編集可能な状態でエフェクトとテキストが設定された、アニメーションタイトルやローワーサードなどのモーショングラフィックステンプレートも収録されており、より高度で見栄えの良いビデオコンテンツの制作に役立ちます。Premiere Proのエッセンシャルグラフィックスパネル上でAdobe Stock収録のモーショングラフィックステンプレートをアプリ内で検索し、結果をプレビューしながら選び、タイムラインにそのままドラッグ&ドロップして配置することもできます。



Adobe Stock提供の無償フッテージを使って新機能を学べるチュートリアルをご用意しています：

After Effectsの新機能「コンテンツに応じた塗りつぶし」を試してみましょう
<https://adobe.ly/2TYmUYy>

Premiere Proの新機能「フリーフォームプロジェクト」パネルを試してみましょう
<https://adobe.ly/2TZoZDA>

Premiere Proの新しいタイトル作成ツールを試してみましょう
<https://adobe.ly/2UCWf0>

Adobe Stockは厳選されたコンテンツを取り揃え、フッテージを簡単に探し出せる強力な検索ツールも装備しています。

サードパーティーテクノロジーとのシームレスな連携

アドビのアプリケーション群は、全体でひとつのオープンプラットフォームを構成することを意図して設計されています。その一環として、MAM（メディアアセット管理）ツール、オーディオやカラーおよびエフェクトのプラグイン、共有ストレージをはじめとするハードウェア対応の最適化といった、サードパーティー製ソリューションとの高度な連携を実現するために拡張を重ねているAPIのライブラリが提供されています。クリエイターの独力に限界があるように、ソフトウェアも単独ではその力を活かしきれません。アドビのツールは異なるテクノロジーを接続することで、制作体制の大小を問わずシームレスな体験を提供します。

アドビのビデオ製品におけるテクノロジーパートナーについては[こちら](#)をご覧ください。



Adobe

アドビ システムズ 株式会社
 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
 ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe, the Adobe logo, Adobe Audition, Adobe Capture, Adobe Premiere, Adobe Sensei, After Effects, Creative Cloud, the Creative Cloud logo, Dimension, Lightroom, Lumetri, Photoshop, and Premiere Rush, are either registered trademarks or trademarks of Adobe Inc. in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2019 Adobe Inc. All rights reserved.